

慶念寺々報

つながり

慶念寺は新たな一歩を踏み出します

宗教法人化へ大きく前進

先日、慶念寺にとって、大きな出来事がありました。それは「県庁の現地調査」。二〇一六年に開所した慶念寺ですが、今年

大きな転機を迎えることになりました。開所当時から、県庁への活動報告を行ってきておりましたが、昨年度で宗教法人取得に向けての最後の活動報告が認められ、所轄庁が行う最後の確認である現地調査が十一月二十一日に行われました。

上の写真は、県庁に提出した書類がしっかりと整っているかの確認。正しく事務処理が出来ているかを確認しながら、お寺の活動の聞き取り調査が行われました。

その後は、実際に慶念寺の本堂や外観。庫裏部分などを見て回り、図面と齟齬が無いか、お寺としての機能が最低限具わっているかなどを確認します。

結果は「宗教法人取得に問題なし」つまり、今後正しく事務処理を行ってけば、来年度には宗教法人の取得が認められることとなります。

布教所の宗教法人取得にかかる

年月は平均十二年

浄土真宗本願寺派の布教所としてゼロから始めたお寺が、宗教法人を取得するまでにかかった期間は平均で十二年と言われています。慶念寺は皆様のおかげも

ちまして、その半分の期間である六年でここまでたどり着くことが出来ました。いつか、あらためて御礼申し上げますが、取り急ぎ、寺報「つながり」をもって御礼申し上げます。

宗教法人設立總會に向けた、門信徒名簿の作成にご協力をお願いいたします

宗教法人設立に向けて、県庁と宗派に門信徒名簿を提出する必要があります。また、名簿に記載させていただいた方には、總會での議決権があり、門信徒の皆様の賛成をもってようやく法人設立という流れになります。つきましては、慶念寺でご法事などを行わせている皆様にお電話にて名簿記載についてのご確認をさせていただきたく存じます。

もちろん、名簿に記載されたからと言って**強制的な寄付は発生いたしませんし、後日抜けることも可能です。**名簿に記載されたからと言って、皆様に不利益になるようなことはいたしません。

また、「つながり」を送らせていただいている公開講座や法話会などご縁をいただいた皆様も、「門徒になりたい」という方がいらっしゃるかもしれません。ぜひお声がけください。

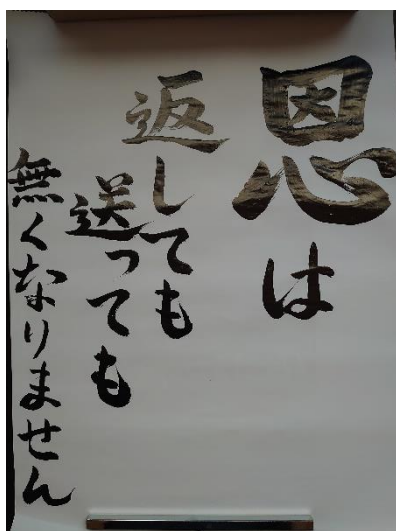
門信徒になってくださった方には、門徒式章を差しあげるとともに、今後、生前にご法名をいただく「帰敬式(ききょうしき)」の受付や、築地本願寺などでの団体参拝のご案内。複数のお寺が合同で開催する研修会や行事のご案内をさせていただきます。

宗教法人取得には、皆様のご協力が不可欠です。ご協力のほど、何卒お願い申し上げます。

慶念寺の掲示板

慶念寺の掲示板の言葉。ブログをご覧の方は、毎月解説を書いておきますので、ご覧いただいているかと存じます。

しかし、インターネットをなさらない方もいらっしゃると思いますので、毎月の寺報にも慶念寺の掲示板の言葉について書いております。今回は第十五弾です。



「恩は返しても送っても無くなりません」
今月は、報恩講があったので掲示板も「報恩講にちなんだものにしたいなあ」と考えていました。考えたり調べたりしているうちに、インドの昔の言葉であるパーリ語の「カタンニユー」という言葉に行き当てありました。

この言葉は、「恩」のもとになる言葉で「なされたことを知る者」と訳される言葉です。解説には「恩とは、何がなき



れ、今日の状態の原因は何であるかを、心に深く考えることである」とありました。

この解説からすると、恩とはこちらから求めて「なされたこと」だけではなく、求めるより先に「なされたこと」もあることがわかります。

恩にちなんだ言葉といえば、「恩返し」という言葉があります。恩を受けた相手に思いを返していく。これはとても素晴らしいことだと思えます。しかし、気づいている、わかっている範囲での「恩」ってそう多くは無いです。

私も大人になり、今までかけられた恩に気づくことが多くあります。それと同時に、きつと私が気づいているのはほんの一部なのだと思います。それでも、その1つ1つに思いを返していきたいと思ひ、日々を過ごしているうちにふと思つたことがあります。

恩返しとは「返済」ではなく「応える」とたとえることができます。同じことを返すのではなく、受けたご恩に私の行動で応えていく。つまり、いただいた恩は決して減らないのです。そしてまた、受けた恩を、また他の人に送る「恩送り」という言葉もあります。



返せば返すほど、送れば送るほど、自分になされたことを知り、無くなるどころか深まっていくのが「恩」ではないでしょうか。報恩講は、「阿弥陀様が「必ず救う」とそのおはたらきを完成してくださったご恩」「それをお説きくださったお釈迦様のご恩」

「阿弥陀様のはたらきを伝えひろめてくださった高僧方のご恩」「それをそのままいただくことの大切さをその身をもって明らかにしてくださった親鸞聖人のご恩」を、「南無阿弥陀仏」と私の口から出るお念仏を通して聞かせていただくご縁です。

これを機に、身近なご恩や阿弥陀様のご恩をあらためてよろこばせていただきますましよう。

築地本願寺の報恩講に出陣しました

この度、築地本願寺の報恩講の十四日速夜法要にて、笙の主管をいたしました。

雅楽と仏教はかわりが深く、浄土真宗本願寺派でも、大きな法要の際には、入堂と退堂の際などに、奏楽員と呼ばれる僧侶が雅楽を演奏いたします。



新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年までは縮小して行われていた築地本願寺の報恩講ですが、少しずつ以前のように法要をお勤めするようになってきました。

私も当日はとても緊張し、手がぶるぶる震えておりました。(写真右から二人目)

ユーチューブの「築地本願寺」チャンネルでも法要の様子が少しづつ上がっているようなので、ぜひお参りし、住職の緊張も少し眺めていただければ幸いです。

第九回公開講座を開催いたしました

十一月にずれ込んでしまった公開講座。十八日にセレモニア北部支社にて開催すること



が出来ました。

講師は引き続き、法重寺住職の南條了瑛先生。第十一条を皆様と一緒に学びました。長い箇所であるため、次回も、十一条のおさらりから始めると思います。

多摩区外であることや、場所をわかりやすくご案内できなかったこともあり、参加人数はそれほど多くはありませんでしたが、参加者の方からは「施設がきれいでよかった」や「駅から近くてよかった」など、好評でした。次回はまた、多摩市民館が工事中ですので、おそらくまた、セレモニア北部支社にて行う



こととなります。改札から徒歩一分。北口から徒歩三十秒ですので、今回参加を見送った方も、ぜひご参加ください。会場の方も、こういった催しは初めてだったので、興味深そうに見学をなさっていました。その中で「始まる前と後で、参加者の方の顔が全然

違いますね」と、お話をされていました。

始まる前は、緊張した面持ちをしている参加者の方が、南條先生のお話を聞いて、朗らかな表情で皆様が帰っていくのがとても印象深かったそうです。実は私も毎回終了後に、皆様のお顔を見るのを楽しみにしています。

宗祖報恩講ならびに

開所記念法要を勤修いたしました。

今年二年ぶりに、お参りを頂いての宗祖



報恩講ならびに開所記念法要を勤修することが出来ました。

本堂のお荘厳（おかげり）リニューアルし、皆様と一緒に法要をお勤めし、引き続き、住職が法話をいたしました。法話の後は昨年寄贈していただいた『親鸞聖人伝絵』を皆様に見ていた

いただきながら、解説をさせていただきます。この『親鸞聖人伝絵』、西本願寺に所蔵されている重要文化財の複製で、非常に貴重なものです。むしろ、本物は美術館などで観ることが出来たとしても、一部分しか見られません。有難さをおかみしめながら、解説をさせていただきます。



そして終わった後は、慶念寺の「門徒式章（もんとしきしょう）」のデザイン決め。これは、門徒の正装で用いられる装飾品で、これをつければどんな服装でも正装になるという優れものなのです。「慶念寺のものが欲しい」とずっと思っていたので、ようやく

作成することが出来ます。門徒総会の後から、皆様に配れるように段取りをする予定です。配布の方法は、これから考えます…

歳末おてらおやつクラブに

「協力をお願いいたします」

来月の法話会にかけて、歳末おてらおやつ

クラブを行います。

おてらおやつクラブとはお寺に供えられるさまざまなおそなえを仏さまからの「おさがり」として頂戴し、子どもを支援する団体の協力のもと、経済的に困難な状況にあるご家庭に「おすそわけ」する活動団体です。慶念寺も賛同し、年に数度「おさがり」贈っております。

年末は学校が長期休暇に入り、給食が無くなります。そして、家庭で過ごす時間が増えるために、家庭への経済的な負担が大きくなる時期でもあります。

一つでも多くの家庭に「おさがり」を贈るために、ご賛同いただけた皆様には十二月十八日の法話会にかけて、お供えをいただければ幸いです。

前回までの「おてらおやつクラブ」の活動の中で「協力したいけど、何をお供えしたらいいのかわからない」というお声も頂戴しております。ですので、大変恐縮ですがお供えに関して少々記載をいたします。

- ・ お米 ニキログラム程度の小分け
 - ・ 常温保存が出来る食品
 - ・ 日用品（筆記用具・洗剤・マスクなど）
- 食品は、賞味期限が二週間以上あるものでお願いいたします。

お供えに関して、疑問質問ございましたら、気兼ねなくお尋ねください。

一人でも多くの子ども達が笑顔で年を越せるよう、皆様のご協力、どうぞよろしくお願いいたします。



発送作業手伝いのお願い

来月も、寺報の発送作業のお手伝いをしていただける方を募集いたします。

慶念寺寺報案内発送作業

日時：令和四年十二月二十五日(日)
十四時から

場所：慶念寺本堂

内容：寺報等の封筒詰め作業

なるべく短時間で終わる予定でありますので、お手伝いいただける方は、電話やメールなどでご連絡ください。ご連絡、心よりお待ちしております。終了後、ご希望の方は駅までお送りいたします。お話しながら楽しく作業しましょう。ご連絡お待ちしております！

お知恵をお貸しください

現在「慶念寺でできる楽しいこと」を模索中です。「こんなことどう？」など、ありましたらお知恵をお貸しください。

先日、お手紙にて「コロナの状況が明けたらこんなことしたい！」というお手紙を頂きました。とても嬉しく思うとともに、坊守と「絶対やろう！」と話をしております。

今後も、様々に企画していこうと思っておりますので、「絵が得意」や「手芸が趣味」等々ございましたら、ぜひご提案ください。

あと、そろそろ写経の会的な催しを検討中です。また、昨年一度行って、第二回が出来ていないあの催しも再開しようと思っております。



仏事について何かあったらまずお寺へ

ご法事に際しても、お葬儀に際しても、事前に日程を決めてからご連絡を頂くと、対応しかねる場合がございます。日程調整の上、予定を決めていきましょう。その際に疑問や質問がございましたら、遠慮なくお尋ねください。会場や葬儀社探しのお手伝いも致します。

ご法事について

最近ご法事で皆様が悩まれるのが場所の問題です。慶念寺では、お寺だけでなくご自宅のご法事や、感染拡大防止のための暫定的な処置として、オンラインを利用してのご法事も行っております。お気軽にご相談ください。また、お布施に関しての質問等もお電話にてお尋ねいただきましたら、お答えいたしますので、こちらも遠慮なくお尋ねください。

お手紙下さい

おうちにあまっている便せんやハガキ、切手などがありませんでしたら、是非慶念寺にお手紙をください。住職や坊守がお返事をいたします。最近では、お手紙をいただくことも増え、本当に嬉しく思っております。日常の事、ご相談などなど。是非お寄せ下さい。

次回の法話会は

十二月十八日(日) 十四時から慶念寺本堂にて

成道会（お釈迦様が悟りを開いたこ戸を機縁とした法要）法話会を行います。皆様のお参り、心よりお待ちしております。

編集後記

今回の寺報は、ボリュームアップをして、いつもの倍の容量でお送りいたしました。なので、書き終わった今はちよっぴり疲れております。何せ十一月は、慶念寺にとって重大なイベントが盛りだくさん。「築地本願寺の報恩講」「公開講座」「宗祖報恩講ならびに開所記念法要」「県庁現地視察」でも、何とか全てを乗り越えることが出来ました。慶念寺の報恩講では、七条袈裟という大きなお袈裟を皆様に近くで手に取っていただくことも致しました。皆様喜んでくださってよかったです。

そして、一面に書きました、宗教法人取得に向けての大きな一歩。布教所としてゼロからスタートした時の大きな目標が、ようやく手の届くところまでできました。まだまだ、不安なことも多いですが、頑張っていきますので、ぜひご協力をお願いいたします。



浄土真宗本願寺派 築地本願寺

川崎多摩布教所 慶念寺

〒214-0012
川崎市多摩区中野島 4-24-2-5
電話：044-819-5482
FAX：044-819-5538
Email：mail@kyounenji.com

ホームページ URL
<https://kyounenji.com/>



慶念寺ホームページ QR コード